

令和2年度下水道事業会計 予算の概要（別紙）

注1) この資料中の金額は、百万円未満を切り捨てております。

注2) 資本的収入及び支出については、支出・収入の順でご説明しております。

令和2年度の予算につきましては、5年計画である「札幌市下水道事業中期経営プラン2020」に基づいて、特に、老朽化が進む施設の改築や維持管理による長寿命化のための事業を強化することとして予算編成を行っております。

1 予算総括表について（1頁）

(1) 収益的収入及び支出

「収益的収入」は、522億9,000万円となり、前年度と比べて、5億6,100万円減少しております。

このうち、主たる収入である下水道使用料は、前年度と比べて、5,000万円増加しております。また、一般会計負担金等については、企業債の元利償還が進んだことなどにより、前年度と比べて、6億5,900万円減少しております。

「収益的支出」は、503億5,900万円となり、前年度と比べて、2億9,200万円減少しております。これは、維持管理費が増加した一方、支払利息の減少により営業外費用が減少したことによるものです。

この結果、収支差引では、19億3,100万円の残額が生じることとなり、ここから消費税を除いた純利益は、5億9,200万円となります。

(2) 資本的収入及び支出

「資本的支出」は、395億8,900万円となり、前年度と比べて、10億900万円減少しておりますが、令和元年度予算には平成30年度からの繰越29億2,000万円が含まれており、この繰越額を除いた当初予算比では建設事業費が21億2,000万円増加しております。

「資本的収入」は、222億1,800万円となり、前年度と比べて、1億9,800万円減少しておりますが、先ほど支出でご説明いたしました平成30年度からの繰越が企業債で9億7,500万円、国庫交付金で13億8,600万円含まれており、この繰越額を除いた当初予算比では、主に建設事業費の増加に伴い企業債が18億2,700万円、国庫交付金が2億6,400万円増加しております。

結果として、収支差引は、173億7,100万円の不足が生じますが、この不足

額を当年度分・過年度分の留保資金等で補填した結果、令和2年度末の資金残は、48億8,200万円となり、前年度と比べて、6億4,300万円減少する見込みです。

2 収支状況について（2頁）

「1 予算総括表」の主な項目について、円グラフで表したものです。資本的収支の不足額については、収益的収支差引残額、減価償却費等で補填します。補填した結果、事業運営に必要な資金は確保できる見込みです。

3 過去5年間の傾向について（3頁）

過去5年間の収益的収支及び資本的収支をグラフにしたものです。傾向としては、収益的収入の下水道使用料は横ばい、収益的支出の維持管理費は増加傾向、資本的収入の企業債は増加傾向、資本的支出の建設改良費は増加傾向となっております。

4 業務量について（4頁）

管路総延長は、8,308.9 kmで、前年度と比べて、1.4 km増加しております。また、総人口普及率は99.8%となっております。料金収入の対象となる年間有収水量は若干の減少を見込んでおります。

5 主要事業について（5・6頁）

「施設の維持管理に関する業務」は、総費用212億5,300万円となり、

「施設の建設に関する事業」は、総事業費227億3,100万円となります。

主な事業内容のうち、「下水道施設の再構築」は、前年度と比べて、事業費が増加し、総事業費の8割以上を占める189億4,300万円となっております。

6頁には参考資料として、主要事業のイメージ図を添付しております。

左側の下水道施設の再構築についての写真は、80年ほど経過した老朽管の改築前後の管内の様子です。老朽化したコンクリート管の中に樹脂製の管を構築する管更生工法を採用した例です。

右側の図は、浸水被害状況の写真、雨水拡充管のイメージ、整備箇所図となっております。雨水拡充管は今年度、平岸地区等にて整備を予定しています。